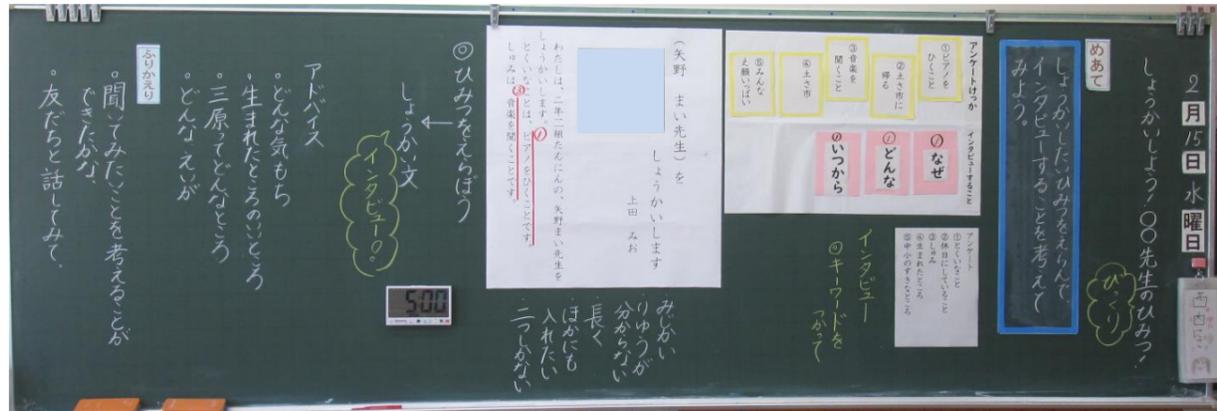


2月15日(水)は、今年度最後となる上田先生による国語科の研究授業でした。本単元は、学校の先生のひみつを全校に伝えるために紹介文を書く学習でした。本時は、4/10時間目です。先生にアンケートを取った中から伝えたいことを選び、さらに詳しくするために質問内容を考える学習でした。本時の授業と事後研究の様子をお知らせします。

単元名「しょうかいします！〇〇先生のひみつ」全10時間(東京書籍)2年1組 上田 美緒 先生
本時の目標：アンケートをもとに集めた情報を整理し、さらにくわしくするために聞きたいことを考えることができる。
本時における見方・考え方：伝えたいことを明確にし、くわしくするために必要な情報は何か考えている。



本時の板書4/10



上田先生による授業のリフレクション

主体的・対話的な活動ができなかったのが大きな反省点でした。子どもたちにしっかりゴールイメージと目的意識、活動の見通しを持たせて進めていくことの大切さを感じました。広がりや深まりがない時は、全体指導に切り替えるなど手立てを考えて取り組んでいきたいと思えます。

授業参観の視点(3点)に沿って協議を行い、全体共有しました。(抜粋)

- 1 本単元で身に付けさせたい資質・能力を育成するための主体的・対話的な学習活動の設定**
○単元ゴールや目的が明確で、児童が見通しをもつことができていた。
▼先生にインタビューして考えることが児童によって違うため、対話が難しかった。
▼対話する中で児童が何に困っているのか分からなかったり、友達に聞きたいことがなかったりしたのではない。アドバイスされた側がされてよかったと感じていなかった。
→ペアだけでなく、一斉で取り上げ、立ち止まって全体共有するとよかった。
→学習の中で、児童に任せるところを考える。(低学年から主体的な学習を考えていきたい)
→研究授業であれば、周りにいる先生に直接インタビューすることで詳しくできると思わせることができたのではないか。
- 2 児童が本気になる問題や課題の工夫**
○単元にワクワク感があり、題材が興味を引くものであった。
▼児童が、知らない先生について紹介したいという思いがあったか。先生の「ひみつ」を紹介することが児童にとってハードルが高かったのではないか。また、みんなが驚くような「ひみつ」とはどんなものか、判断材料がないので難しかった。
- 3 「言葉による見方・考え方」を働かせるための手立てや働きかけ**
○▼「なぜ」「どんな」「いつから」などのキーワードの提示が、インタビューをする質問を考える手がかりになっていたが、それが逆に限られてしまうことになったのではないか。
→先生にインタビューをたくさんして広げて、知ったことの中から目的・相手意識をもって必要なものを絞っていく。

上田先生の授業では、導入時の興味付けの工夫や学習を進めていくための手立てがたくさん見られました。研究授業を通して、子ども主体となるために学習活動をどのように仕組んでいくとよいのか、また、これまでの研究協議の中でも課題にあがった対話の目的や方法、タイミングなど、これから重視される「個別最適な学び」や「協働的な学び」と合わせて考えていきたいと思えました。

<来年度に向けて>

今年度の研究授業を通しての学びを、来年度の授業づくりに生かしていくためにまとめておきたいと思えます。

- *対話の目的・取り入れ方(ペアやグループ)を考える。
- *まとめ・振り返りを通して児童の学びの自覚につなげる。→評価へ
- *学習者主体となるよう学習活動を工夫する。(課題解決、問題解決等)
- *ICTを効果的に活用した授業づくりをする。
- *カリキュラムを意識し、各教科等と関連させる。

来年度も学習指導要領に示されている資質・能力、見方・考え方を踏まえ、上記の内容についてさらに研究し、授業改善につなげていきましょう。